

一章三節 無分別智

ところで、このような統合場を基本とする世界モデルの立場からは、仏教でいうところの究極の智慧である無分別智とは、如何なるものとして理解できるであろうか。

以前述べたように、無分別智とは何も対象を取ることがない、場のレベルの純粋な意識そのものの状態である。(ダライ・ラマ法王の) 水と色の譬えで言えば、色が抜けきって完全に透き通った水のみ^{いる}の純粋な状態である。内容的には空^{いる}そのものである。そのような無分別智の空^{くう}の状態は、豊潤な意識内容であふれた分別智の立場から見れば、何の意味も価値も見出せないように思える。しかしながら、一旦その境地に達した覚者から見れば、それは分別智よりも、はるかに価値あるものとなる。それによってこそ、究極的な真理は把捉される。この真理に比べれば、分別智で捉えられる一切の現象は相対的なものであり、極言すれば、それは「虚妄」でしかない。

このような覚者の洞察が成立する理論的根拠を求めてみるならば、「知る」という意識場の主観的なはたらきは、統合場のより根源的でベーシックな「知る」というはたらきを反映している可能性が考えられる。つまり、「知る」というはたらきは統合場と意識場を貫く根本的な特性であるからこそ、それを最も明瞭かつ純粋なかたちで把捉する無分別智は、真理を見通す智慧として、特別の価値と意味があるのではないだろうか。

分別智においても統合場の特定のはたらきは、特定の意識内容として顕現されている。目に映る山河草木は統合場の特定のはたらきに相応する。無限のバリエーションの統合場の特定のはたらきが、豊潤な意識内容をつくり上げている。それに対して、覚者の無分別智では、統合場の根本的なはたらきである「知ること」が最も如実なかたちで体験されることになる。対象が取られることが無くなった瞬間には、それまで統合場の特定のはたらきに関する情報によって埋め尽くされていた意識場が静まり、統合場の最も根本的な特性である「知る」というはたらきが如実に体験されることになる。この二つの場（意識場と統合場）を貫く根本特性である「知ること」を、最も明瞭に純粋なかたちで把捉する智慧こそが、分別智を超えた真理を透徹する最高の智慧としての扱いを受けられるようになる。

ただし、通常は日常生活の中で「知る」という言葉が指し示すのは、神経活動と関連する意識場（の活動）である。私たちが日頃慣れ親しんでいる「知る」は、意識場のレベルでの「知る」に限定される。しかしながら、ここで述べる統合場レベルでの「知る」というのは、意識場の「知る」を展開させるポテンシャルを持つ、より根源的な心的特性である。統合場は本来根源的な心的特性を備えており、そのベーシックな心的性質が、

ある一定の条件の下で意識場へと展開することになる。統合場の根源的な心的特性が、特定の条件の下で限定化、具現化されて、意識の場が生起する。

このような考え方をもっと分かりやすいものとするために、一つの譬えを用いて説明してみよう。今、眼前に広がる波立つ海をイメージしてみる。海面上の波動のうねりからは、波しぶき（無数のしずく）が跳ね上がっている。この場合、海というのは統合場に、そして、そこから生じた無数のしずくの一つ一つは意識場に喩えることができる。しずくは海面の波動から次々と生じているが、しずくそのものは海水と同じ根源的性質を備えており、本性としては一元である。しずくと海は同質である。その「水」としての基本的性質は、二つを貫く根本的性質である。しずくの基本的性質を知ることが、海の基本的性質を知ることと等しい。このとき、しずくを生む原因となった海面上の波動は、物質の場として認知される。波動のうねりは、粒子や力として理解される。

このように覚者の無分別智を解釈するならば、私たち凡夫は、日本人に特に馴染みの深い大乘仏教思想の世界観を、より理解しやすくなるのではないかと思う。大乘仏教の重要経典である華嚴経けごんきょうの「この三界はただ心のみである（三界唯心）」という有名な句に示されるように、大乘仏教の基本思想は「唯心」である。唯物論者にとっては容認し難い、この世界はただ心のみであるという唯心思想が、大乘仏教の根底に流れている。

このような私たち凡夫には非常識的とも思える唯心思想も、「知る」というのはたらきが、統合場と意識場に行き渡る根本的性質であると考えれば、非常に理解しやすくなるかと思う。大乘仏教が無分別智の真理を考慮して「心」と言うとき、それは意識場に限定されず、統合場も視野に入っている。したがって、分別智しか知らない私たち凡夫が「心の外には何も無い」と言えばそれは虚偽になるが、無分別智を考慮した大乘仏教が「心を超えては何も無い」と言うとき、それは真理となる。分別智レベルの「知る（心）」は意識場に限定されているが、無分別智レベルの「知る（心）」は統合場へと拡張されている。